BASF
We create chemistry

ゲームチェンジャーDMI

マックスティーマ®フロアブル



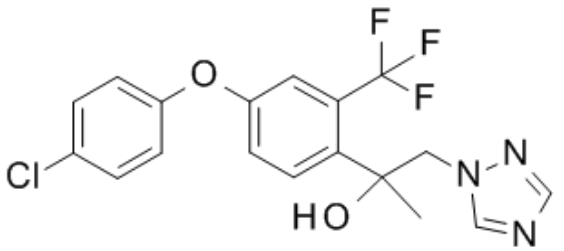


BASFジャパン（株）
アグロソリューション事業部環境緑化製品部　澤路聖之

マックスティーマ®フロアブル
★製品概要

- 有効成分：**メフェントリフルコナゾール**（mefentrifluconazole）　34.9%
  （レビゾール®）

化学名：(2*RS*)-2-[4-(4-クロロフェノキシ)-2-(トリフルオロメチル)フェニル]-1-(1*H*-1,2,4-トリアゾール-1-イル)プロパン-2-オール



- 製剤：類白色～淡褐色水和性粘稠懸濁液体（フロアブル）
- 作用機構　EBI（エルゴステロール生合成阻害剤）　殺菌剤分類３
- 普通物
- 包装規格　500mℓボトルｘ10本／ケース

BASF
We create chemistry

マックスティーマ®フロアブル
★登録内容

農薬登録：第24933号

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
西洋芝（ベントグラス）	炭疽病 ダラースポット病 葉腐病（ブラウンパッチ） フェアリーリング病	1000倍	500mℓ/㎡	発病前～発病初期	3回以内	散布
	炭疽病 ダラースポット病	200倍	100mℓ/㎡			
西洋芝（バーミューダグラス）	カーブラリア葉枯病	1000倍	500mℓ/㎡			

メフェントリフルコナゾールを含む農薬の総使用回数：3回以内

4月8日出荷予定

マックスティーマ®フロアブル
★特長

- ✓ 炭疽病、フェアリーリング病、ダラースポット病に対して高い防除効果を示す
- ✓ 葉内浸達性および葉内での移行性を有して、治療効果が優れる
- ✓ ベントグラスに対して非常に優れた選択性がある
- ✓ 夏期高温期においても芝にマイルド！

☞<u>薬剤選定の選択肢が増えて、柔軟なローテーションが組める</u>

- ✓ 従来剤の効果が低下したダラースポットにも有効
- ✓ バミューダグラスに対して非常に優れた選択性がある

BASF
We create chemistry

マックスティーマ®フロアブル
★作用機構

✓本剤は、糸状菌の細胞膜を構成するエルゴステロール生合成を阻害する殺菌剤（EBI）である。　殺菌剤分類：３

✓EBI内では、14 位炭素の脱メチル化阻害剤（Demethylation Inhibitor、DMI）のグループに属する。

✓その作用機構は，シトクロムP450ステロール14α-デメチラーゼ（CYP51）の阻害によるエルゴステロール生合成の阻害である。

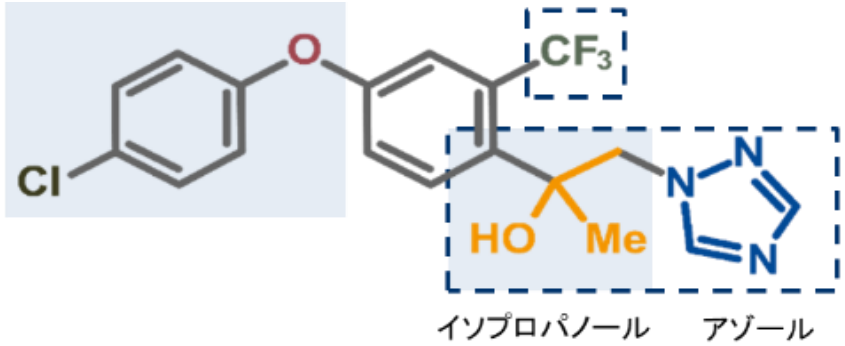
✓その結果として菌体内に細胞膜の形成不全を引き起こし菌糸伸長を阻害する。

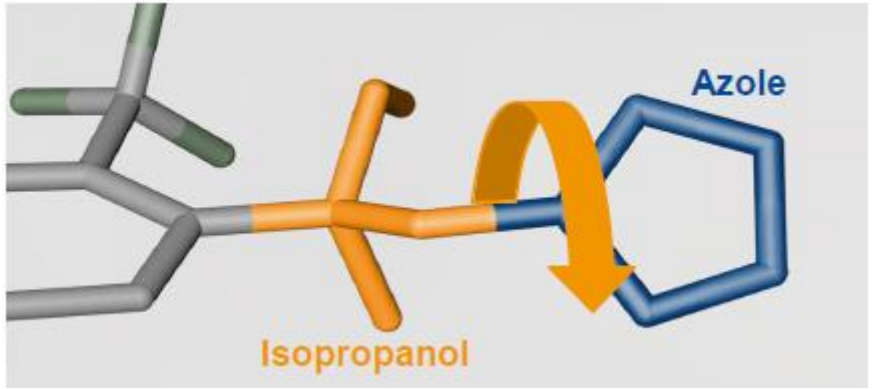
マックスティーマ®フロアブル
★作用機構の特長

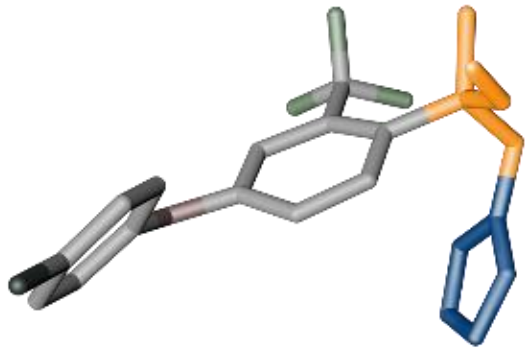
✓本剤はEBIとしては初のイソプロパノールアゾール骨格を有している。このイソプロパノールはトリアゾールを「頭」として「首」の位置にあり、立体構造を柔軟に変化させることが可能となる。

✓このユニークな化学配置により、さまざまな立体構造を簡単にとることができる。また、優れた結合力を確保しながら標的酵素上の特定部位へ結合し、その結果、酵素活性を強く阻害する。

✓この適応性「フレキシパワー」によってEBI低感受性菌に対しても効果を示すことが示唆された（平山、2022）。



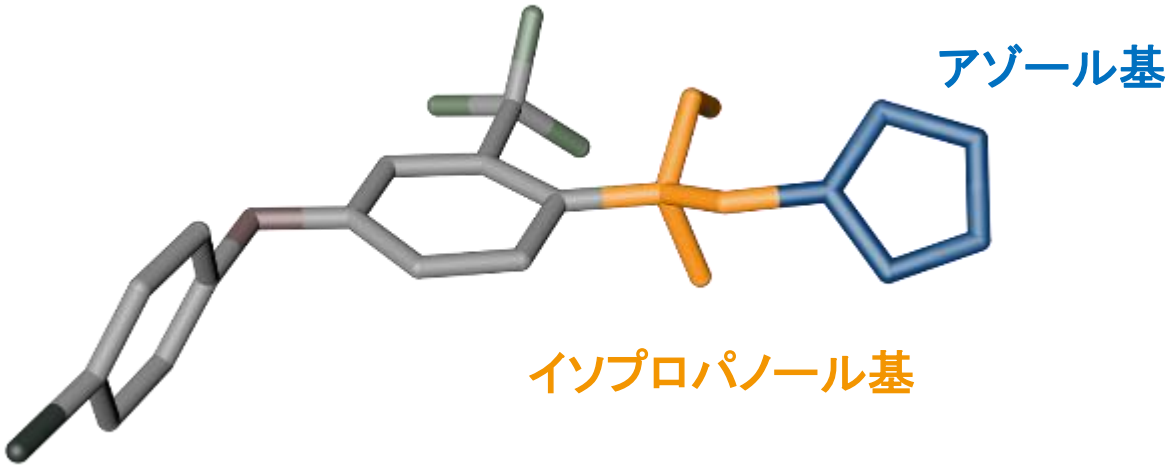




作用機構

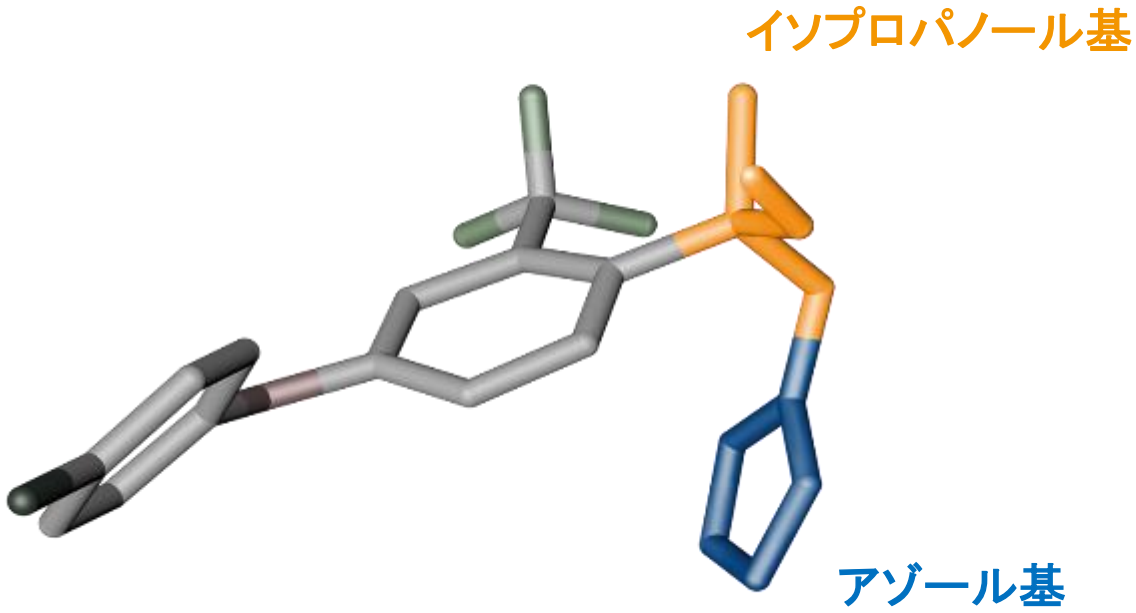
フレキシパワーによる強い結合力

非結合状態



結合状態

酵素の結合ポケット内で「フック」配座に折り畳まれる



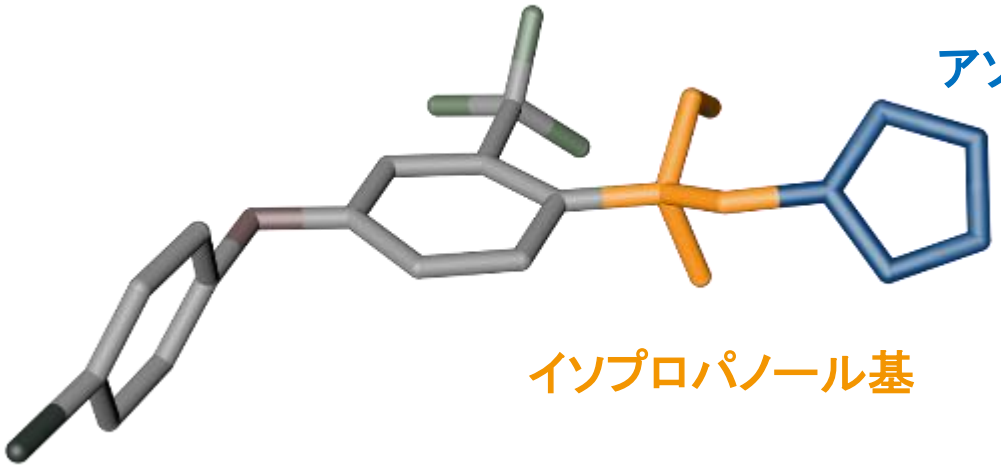
- 本剤はイソプロパノール基の配座変化により、優れた標的受容体に対する結合力と結合ポケットの変化への適応力を有する

BASF
We create chemistry

作用機構

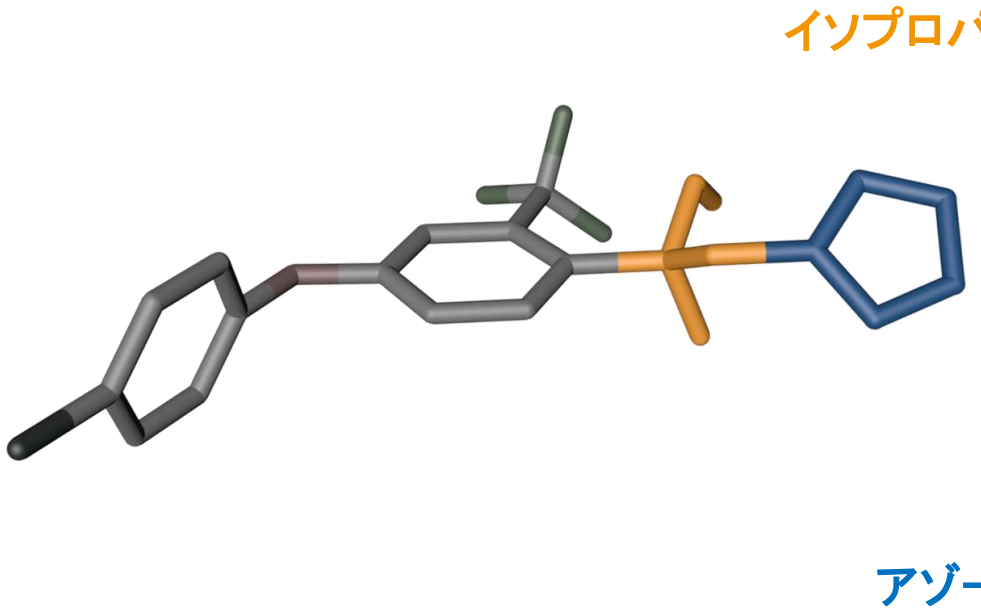
フレキシパワーによる強い結合力

非結合状態



結合状態

酵素の結合ポケット内で「フック」配座に折り畳まれる

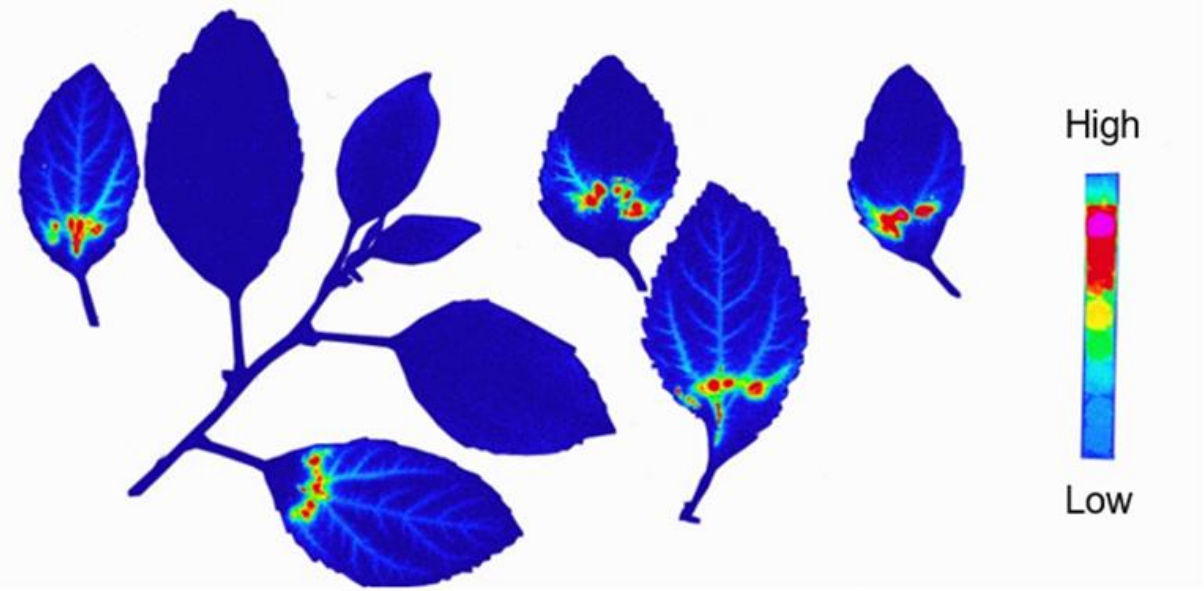


- 本剤はイソプロパノール基の配座変化により、優れた標的受容体に対する結合力と結合ポケットの変化への適応力を有する

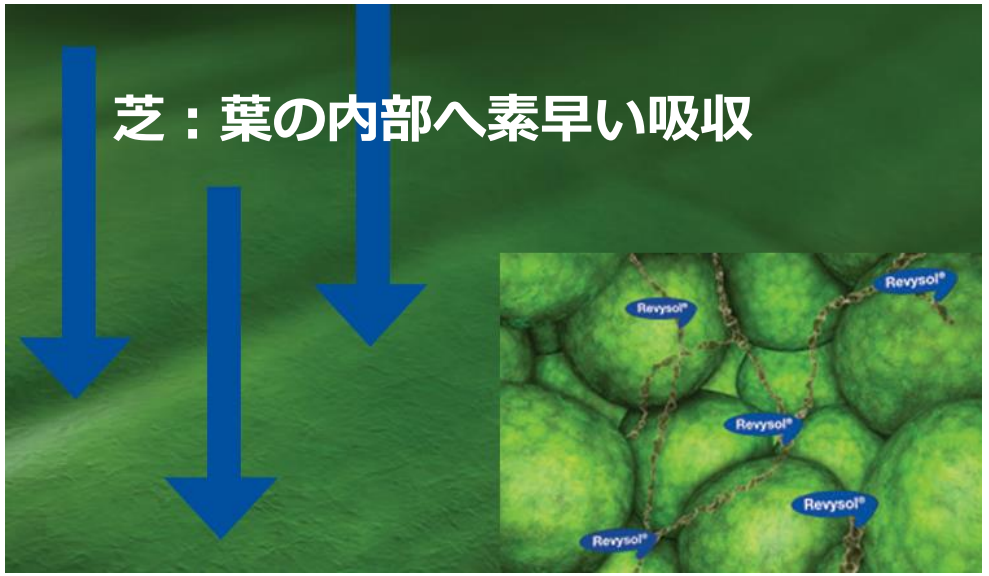
BASF
We create chemistry

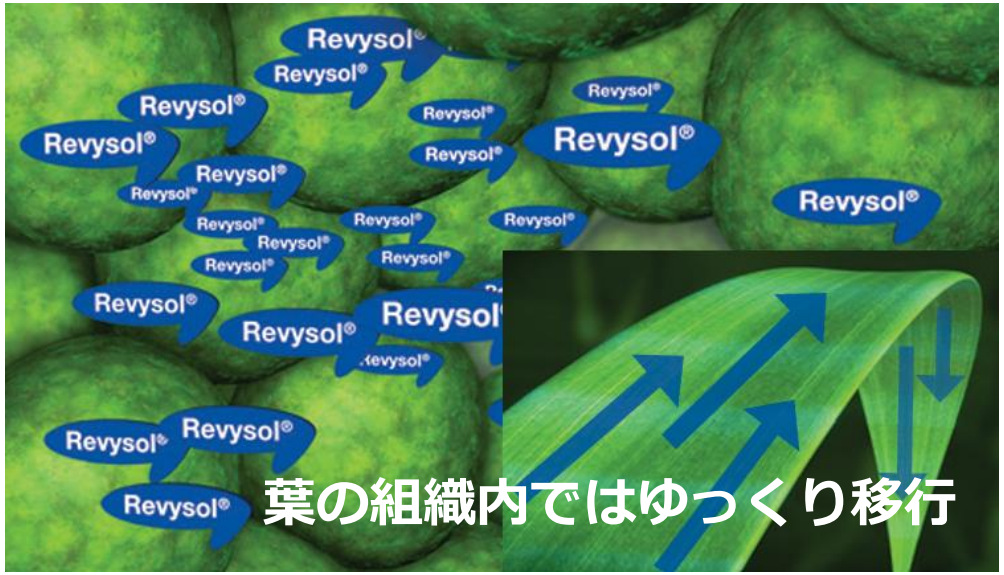
マックスティーマ®フロアブル
★優れた移行性

りんご葉での14C標識メフェントリフルコナゾールを用いた試験において、りんご葉基部に処理された本剤は葉先に移行し、優れた移行性を有することが認められた。



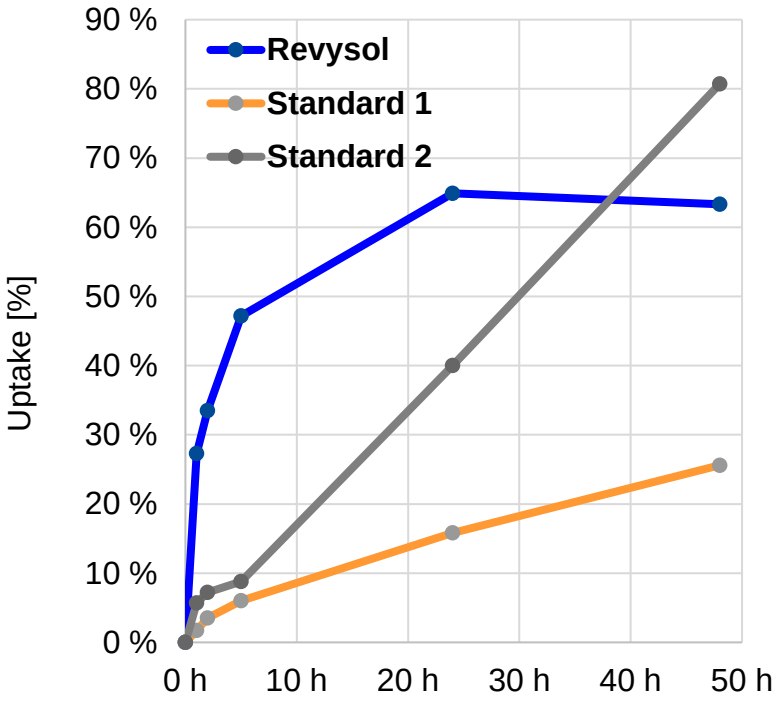
レビゾール®りんご葉基部への処理7日後





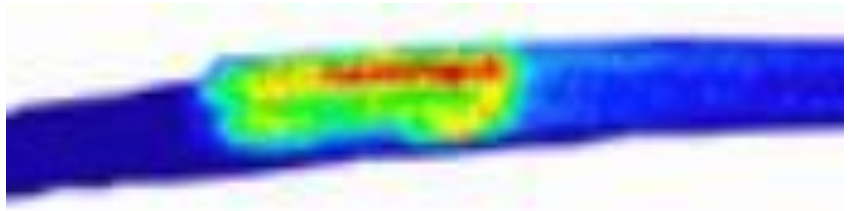
作用特性

葉内への吸収力

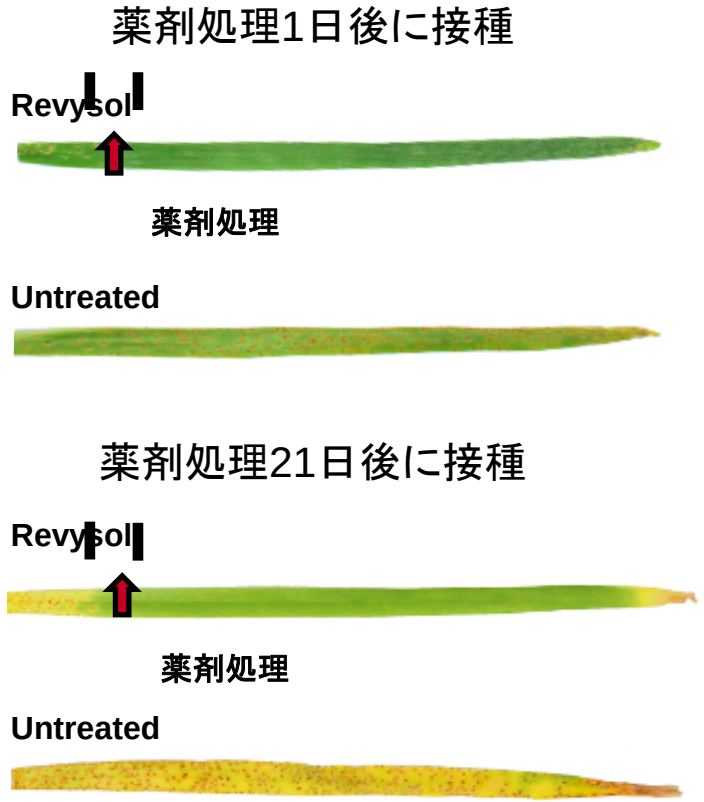


葉内での保持力

放射性同位体で標識したメフェントリフルコナゾールを滴下処理し、処理1日後に移行状況を観察した



葉内でのリザーバー



- 優れた吸収力と移行性を併せ持ち、長い残効性を示す

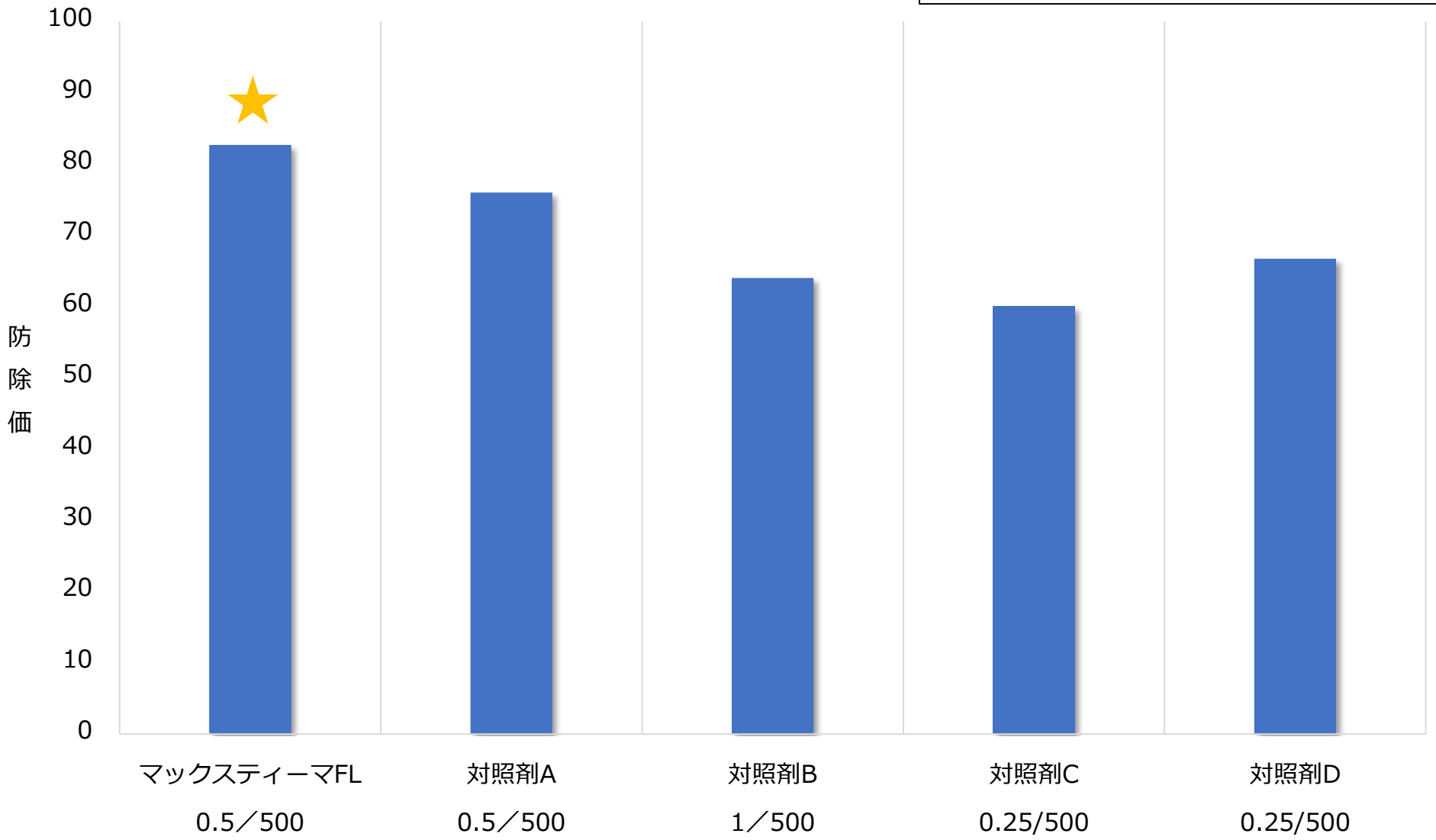
BASF
We create chemistry

マックスティーマ®フロアブル
試験結果概要★炭疽病

試験年度	試験場所（試験機関）	散布日	処理時の発病状態	調査日	無処理の発病程度	薬剤名（薬量）	散布水量（L/㎡）	防除価	対対照剤
2018	ﾒｲﾌﾟﾙﾎﾟｲﾝﾄGC	7/12	発病前	7/26	少	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	100	B
	（東日本ｸﾞﾘｰﾝ研究所）					対照剤A（0.5）	0.5	100	
	周南CC	7/30,8/10	発病初期	8/23	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	99.5	B
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		0.13%			対照剤A（0.33）	0.5	98.2	
2022	関西ｸﾞﾘｰﾝ研究所	7/13,7/20,7/27	発病後	8/3	多	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	96.2	**A**
			11.7-14.3%			〃	0.1	94.4	**A**
						対照剤B（0.5）	0.5	84	
	広島CC	7/13,7/27	発病前	8/9	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	98.5	B
						〃	0.1	98.1	B
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）					対照剤C（1）	0.5	97	
	周南CC	7/13,26	発病前	8/8	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	97.7	B
						〃	0.1	96.5	B
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）					対照剤C（1）	0.5	95.9	
	葉山国際CC	8/2	発病後	8/12	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	89.1	B
			2.3-3.3%			〃	0.1	87.4	B
	（緑地環境技術研究所）					対照剤C（1）	0.5	82	
2023	葉山国際CC	7/18	発病後	7/28	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	92.5	B
			1.3-2%			〃	0.1	92.5	B
	（緑地環境技術研究所）					対照剤C（1）	0.5	85	

炭疽病・競合剤比較（2024）@関西グリーン研究所

試験場所：京都府内ゴルフ場　サブグリーン
病害発生状況：中発生（調査時のハッチ面積率25%）
芝種：ベントグラス（007）
薬剤処理：7月18日及び7月26日（2024年）
調査：8月9日



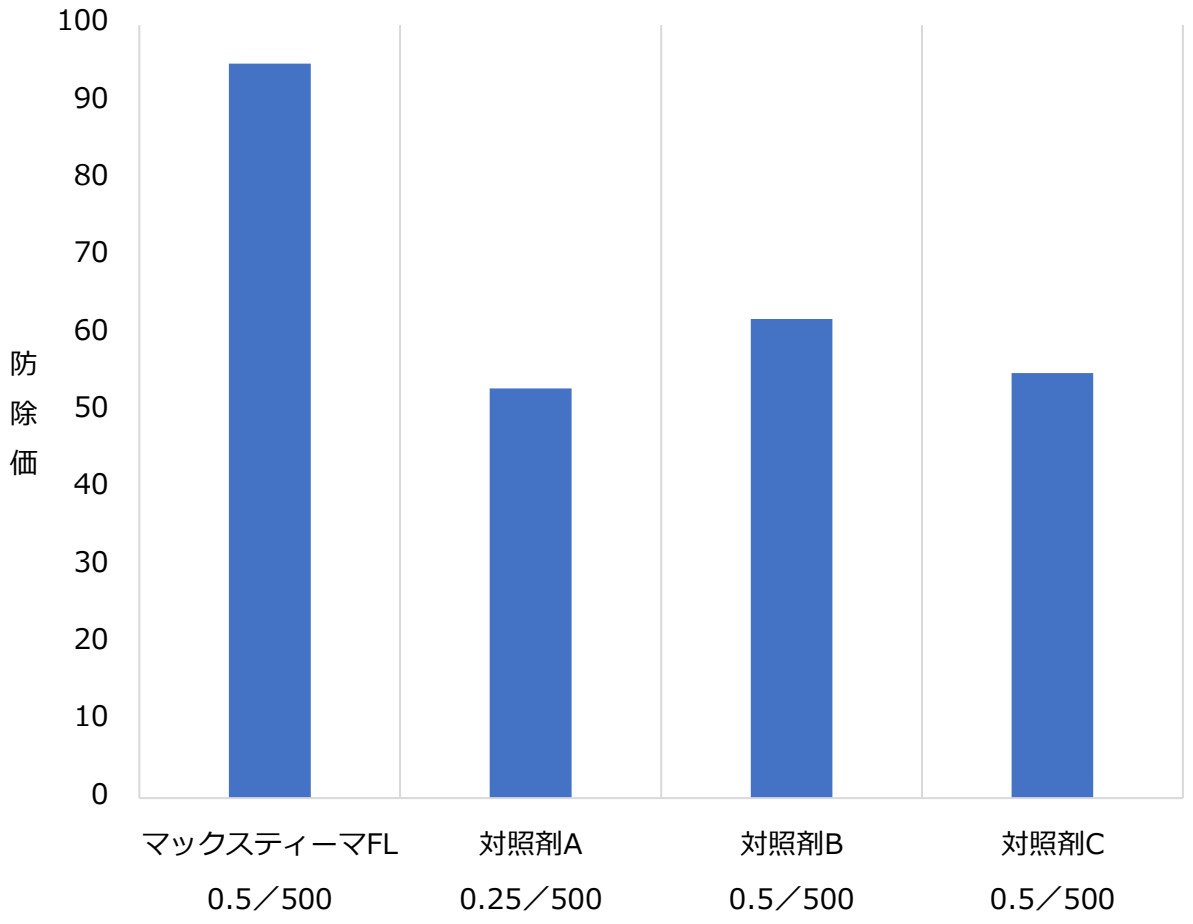
マックスティーマ®フロアブル
★炭疽病防除試験

試験場所： 香川県内ゴルフ場　　ナーセリー
芝種：ベントグラス
薬剤散布日：2024年7月23日、8月23日
試験規模：4㎡（2m x 2m）、3反復

	薬量	水量	パッチ面積（%）		防除価	薬害
			8/23	9/10		
マックスティーマFL	0.5	500	1.3	1.7	95	-
対照剤A	0.25	500	0.7	17.3	53	-
対照B	0.5	500	1.3	14.0	62	-
対照剤C	0.5	500	1.3	16.7	55	-
無処理	-	-	4	36.7		


マックスティーマ処理区


無処理区



マックスティーマ試験散布
@鹿児島県内ゴルフ場　練習グリーン（散布：2024/9/4 AM8時）



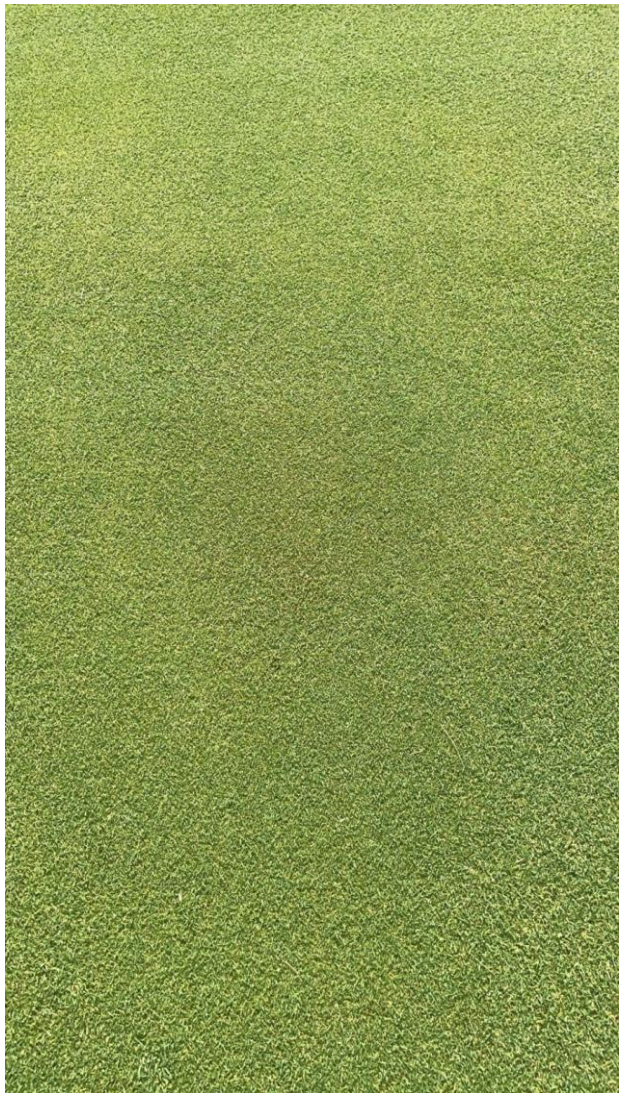




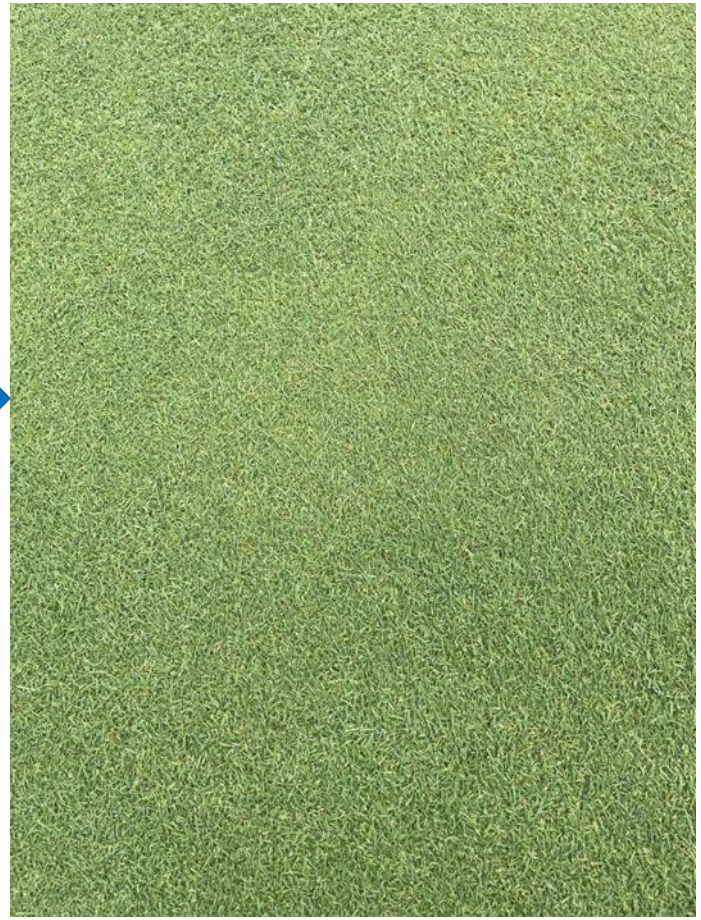
マックスティーマ試験散布
@鹿児島県内ゴルフ場　練習グリーンOut（散布：2024/9/4）



9/4処理時→



9/11→



9/19

マックスティーマ試験散布
@鹿児島県内ゴルフ場　練習グリーンIn（散布:2024/9/4）



9/4処理時→　　9/11→　　9/19

マックスティーマ®フロアブル
試験結果概要★フェアリーリング

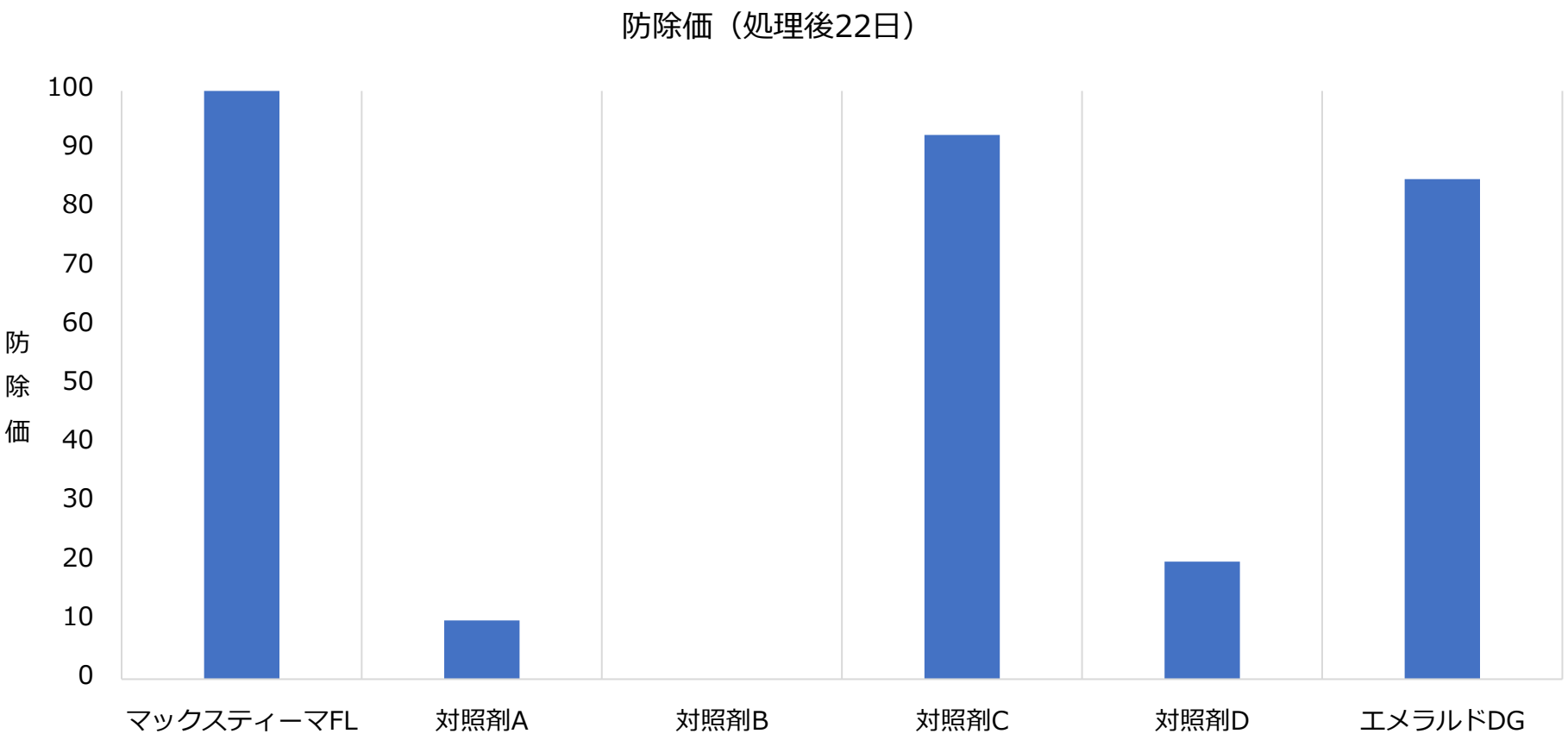
試験年度	試験場所（試験機関）	散布日	処理時の発病状態	調査日	無処理の発病程度	薬剤名（薬量）	散布水量（L/㎡）	防除価	対対照剤
2018	広島CC西条C	8/8,20	発病後	9/3	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	±/-/-	C
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		++		ﾎｺﾘﾀｹ	対照剤A（0.33）	1	±/-/-	
	グリーンランドGリゾート	7/2,18	発病後	8/1	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	-/-/-	**A**
	（西日本ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		+～±		ﾎｺﾘﾀｹ	対照剤B（0.25）	0.5	±/-/-	
2022	広島CC	7/26,8/3	発病後	8/17	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	++/++/++	-
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		+++		ﾎｺﾘﾀｹ	-			
	和木GC	7/25,8/2	発病後	8/16	多	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	++/++/+	-
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		+++		ﾎｺﾘﾀｹ	-			
2023	広島CC	6/22,7/6	発病後	7/18	多	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	±/±/-	B
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		+++～++		ﾎｺﾘﾀｹ	対照剤A（0.33）	1	±/±/-	
	和木GC	8/9,18	発病後	8/28	多	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	-/-/-	B
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		+++		ﾎｺﾘﾀｹ	対照剤A（0.33）	1	±/-/-	

マックスティーマ®フロアブル
試験結果概要★ダラースポット

試験年度	試験場所（試験機関）	散布日	処理時の発病状態	調査日	無処理の発病程度	薬剤名（薬量）	散布水量（L/㎡）	防除価	対対照剤
2018	ﾒｲﾌﾟﾙﾎﾟｲﾝﾄGC	5/11	発病後	5/22	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	93.8	B
	（東日本ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		8.3%			対照剤A（0.5）	0.5	90.8	
	西日本ｸﾞﾘｰﾝ研究所	5/15,5/25,6/4	発病後	6/14	少	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	100	**A**
			1.4%			対照剤B（0.5）	0.5	97	
2022	賀茂CC	5/18,5/26	発病前	6/9	少	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	98.2	B
						〃	0.1	97.3	B
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）					対照剤A（0.5）	0.25	97.3	
	和木GC	5/17,5/25	発病前～発病初期	6/8	少	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	98	B
			0～0.1%			〃	0.1	98	B
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）					対照剤A（0.5）	0.25	94.8	
	新沼津CC	4/20,4/30,5/10,5/20	発病前	5/30	少	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	100	**A**
						〃	0.1	100	**A**
	（静岡県農林技術研）					対照剤B（0.5）	0.5	98.5	
2023	新沼津CC	4/19,5/1,5/11,5/21	発病後	5/30	多	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	99.9	**A**
	（静岡県農林技術研）		1.6%			対照剤B（0.5）	0.5	96.5	
	関西ｸﾞﾘｰﾝ研究所	5/19,5/26,6/7	発病前～発病初期	6/14	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	99.8	B
			0～0.3%			〃	0.1	100	B
						対照剤C（0.125）	0.5	98.8	
	和木GC	6/13,6/24	発病初期	7/12	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	100	B
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		0.1%			対照剤A（0.5）	0.25	97.4	

マックスティーマ®フロアブル
★ダラースポットに対する効果

試験場所： 山形県内ゴルフ場　　ベントグラスナーセリー
試験規模：1区4㎡（2mx2m）、2反復
散布水量：100㎖／㎡、蓄圧式噴霧器
処理日：2023年5月18日







➢ **従来剤の効果が低下しているところでも、高い防除効果を示した。**

マックスティーマ®フロアブル
★ダラースポットに対する効果

試験場所：　山形県内ゴルフ場　　ベントグラスナーセリー
試験規模：1区4㎡（2mx2m）、2反復
散布水量：100㎖／㎡、蓄圧式噴霧器
処理日：2023年5月18日



マックスティーマ処理区（処理後22日）

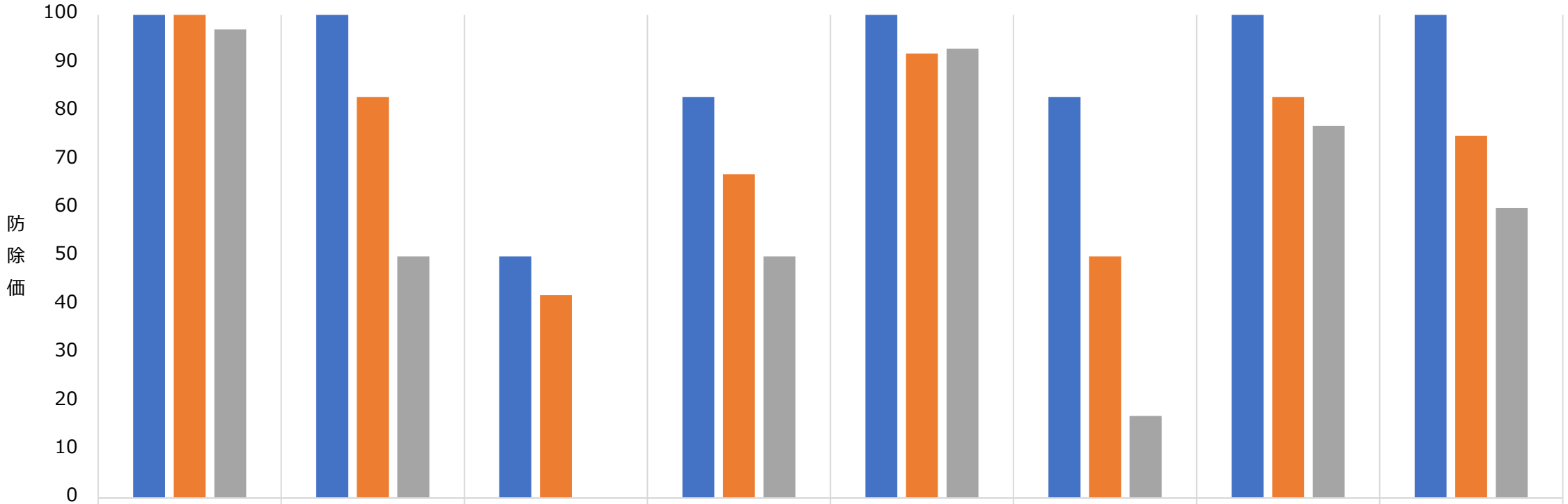


無処理

- **従来剤の効果が低下しているところでも、高い防除効果を示した。**

試験場所： 山形県内ゴルフ場　　ベントグラスナーセリー
試験規模：1区3㎡（2mx1.5m）、2反復
散布水量：100mℓ／㎡、蓄圧式噴霧器
処理日：2024年5月15日

マックスティーマ®フロアブル
★ダラースポットに対する効果（2024）



	マックスティーマFL	対照剤A	対照剤B	対照剤C	オナーWDG	対照剤D	対照剤E	対照剤F
5月28日（処理後13日）	100	100	50	83	100	83	100	100
6月12日（処理後28日）	100	83	42	67	92	50	83	75
6月28日（処理後44日）	97	50	0	50	93	17	77	60

- **従来剤の効果が低下しているところでも、高い防除効果を示した。**
- **長期間にわたってダラースポットの発生を抑えている。**

マックスティーマ®フロアブル
★ベントグラスに対する安全性①

薬剤	薬量	水量	処理日	試験目的	ベントグラス薬害	
					6/15	6/28
マックスティーマ	1	100	5/24	薬害	-	-
〃	2	100	〃	薬害	-	-
〃	4	100	〃	薬害	-	-
無処理	-	-	-		生育期	生育期

試験場所： 鹿児島県内ゴルフ場
芝種：ベントグラス　L-93
試験規模：薬害の検討は1区4㎡
処理日：2023年5月24日

薬剤	薬量	水量	倍率	ベントグラス薬害		
				6/8	6/15	6/26
マックスティーマ	2	500	250	-	-	-
〃	5	500	100	-	-	-
無処理	-	-	-	生育期	生育期	生育期

試験場所： 鹿児島県内ゴルフ場
芝種：ベントグラス　L-93XD
試験規模：1区1㎡
処理日：2024年6月1日

- **ベントグラスに対する影響はみられなかった。（5月-6月処理）**

マックスティーマ®フロアブル
★ベントグラスに対する安全性②

	薬量	水量	倍率	ベントグラス薬害（-～+++,×）				
				7/27	8/2	8/17	9/6	9/20
マックスティーマ	1	200	200	-	-	-	-	-
	2	400	200	-	-	-	-	-
	5	1000	200	-	-	-	-	-

試験場所：千葉県内試験圃場
芝種：ベントグラス（ペンクロス）
薬量設定：2倍量、4倍量、10倍量
薬剤散布：2023年7月24日（梅雨明け2日後）

	薬量	水量	倍率	ベントグラス薬害（-～+++,×）			
				8/5	8/15	8/28	9/18
マックスティーマ	2	100	50	-	-	-	-
	5	100	20	-	-	-	-

試験場所： 千葉県内試験圃場
芝種：ベントグラス（ペンクロス）
薬量設定：4倍量、10倍量
試験規模：1区1㎡、2反復
薬剤散布：2024年7月31日（梅雨明け後）

- **ベントグラスに対する影響はみられなかった。（7月、梅雨明け直後処理）**

マックスティーマ®フロアブル
★ベントグラスに対する安全性③

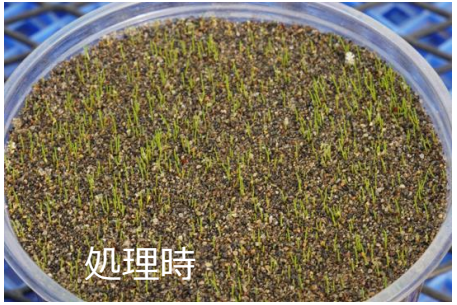
	薬量	水量	倍率	ベントグラス薬害（-～+++,×）			
				9/20	10/3	10/19	11/20
マックスティーマ	1	200	200	-	-	-	-
	2	400	200	-	-	-	-
	5	1000	200	-	-	-	-

試験場所：　千葉県内試験圃場
芝種：ベントグラス（ペンクロス）
薬量設定：2倍量、4倍量、10倍量
薬剤散布：2023年9月11日（連日厳しい残暑続き）

	薬量	水量	倍率	ベントグラス薬害（-～+++,×）		
				9/25	10/10	10/30
マックスティーマ	2	100	50	-	-	-
	5	100	20	-	-	-
オナーWDG	1	100	100	-	-	-
	2.5	100	40	-	-	-

試験場所　千葉県内試験圃場
芝種：ベントグラス（ペンクロス）
試験規模：1区1㎡、2反復
薬剤散布：2024年9月18日（残暑期）

- **ベントグラスに対する影響はみられなかった。（9月、残暑期処理）**



マックスティーマ®フロアブル 出芽期のベントグラスに対する影響

ポット試験
処理：ベントグラス出芽期（播種7日後）
試験機関：緑地環境技術研究所（2023）

ベントグラスの薬害症状と程度

薬剤名	薬量（mℓ／㎡）	処理14日後	処理21日後	薬害症状
マックスティーマ	0.5	0	0	**なし**
〃	1	0	0	**なし**
対照剤	登録薬量	1.3	1.7	生育抑制
〃	登録薬量X2	3.0	2.7	生育抑制

*数値は観察による薬害程度
0：薬害なし～10：甚大（枯死）

ベントグラスの生育（草高㎜）

薬剤名	薬量（mℓ／㎡）	処理14日後		処理21日後	
無処理	-	25.0	100%	28.3	100%
マックスティーマ	0.5	25.3	101%	28.0	99%
〃	1	24.5	98%	28.0	99%
対照剤	登録薬量	22.3	89%	27.7	98%
〃	登録薬量X2	20.3	81%	24.0	85%

➢ **グリーンにインターシードされたベントグラスの出芽期処理において安全性が高いと考えられる。**

マックスティーマ®フロアブル
試験結果概要★カーブラリア葉枯病

試験年度	試験場所（試験機関）	散布日	処理時の発病状態	調査日	無処理の発病程度	薬剤名（薬量）	散布水量（L/㎡）	防除価	対対照剤
2022	賀茂CC	6/13	発病初期	6/23	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	98.8	(B)
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		0.6%			対照剤A（0.5）	0.1	100	
	周南CC	6/13	発病初期	6/24	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	99	(B)
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		0.3%			対照剤A（0.5）	0.5	99.6	
2023	鬼ノ城GC	6/12,23	発病初期	7/4	少	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	95	B
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		0.2%			対照剤B（2）	1	95	
	賀茂CC	6/19,28	発病後	7/10	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	92.5	B
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		1%			対照剤B（2）	1	84.9	
	周南CC	6/13,24	発病初期	7/4	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	95.5	B
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		0.2%			対照剤B（2）	1	90.5	
	大山平原GC	9/27	発病初期	10/10	中	ﾏｯｸｽﾃｨｰﾏ（0.5）	0.5	84.6	B
	（新中国ｸﾞﾘｰﾝ研究所）		0.6%			対照剤B（2）	1	84.6	

マックスティーマ®フロアブル
★バミューダグラス葉枯病に対する効果

試験場所： 鹿児島県内ゴルフ場
芝種：バミューダグラス　美ら緑
試験規模：2000㎡（500㎡ x 4H）
処理日：2023年6月13日

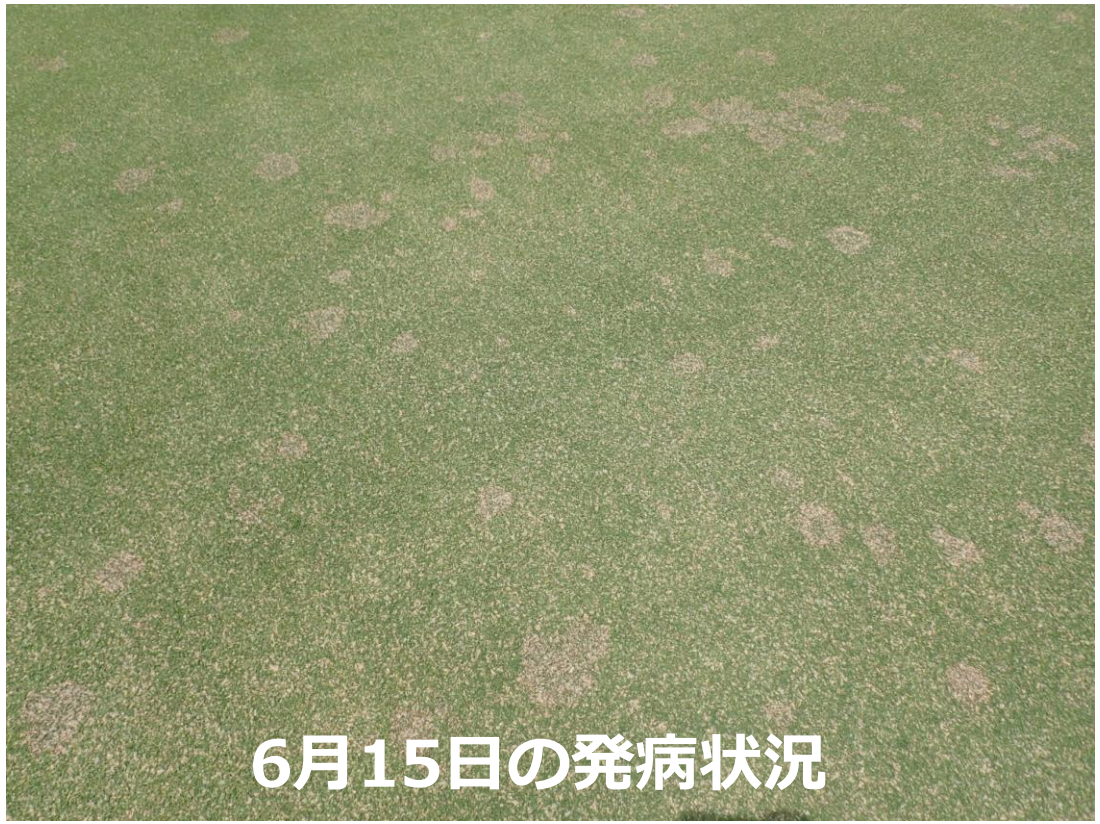




- **発生後の葉枯病に対して優れた防除効果（治療効果）を示した。**
- **バミューダグラスに対する影響はみられなかった。**

マックスティーマ®フロアブル
★バミューダグラス葉枯病に対する効果

試験場所： 鹿児島県内ゴルフ場
芝種：バミューダグラス　美ら緑
試験規模：2000㎡（500㎡ x 4H）
処理日：2023年6月13日





- 発生後の葉枯病に対して優れた防除効果（治療効果）を示した。
- バミューダグラスに対する影響はみられなかった。

バミューダ葉枯病防除　現地試験★美ら緑（6月処理,2024）@鹿児島県内ゴルフ場

6月13日散布前　→　→　→　6月25日調査





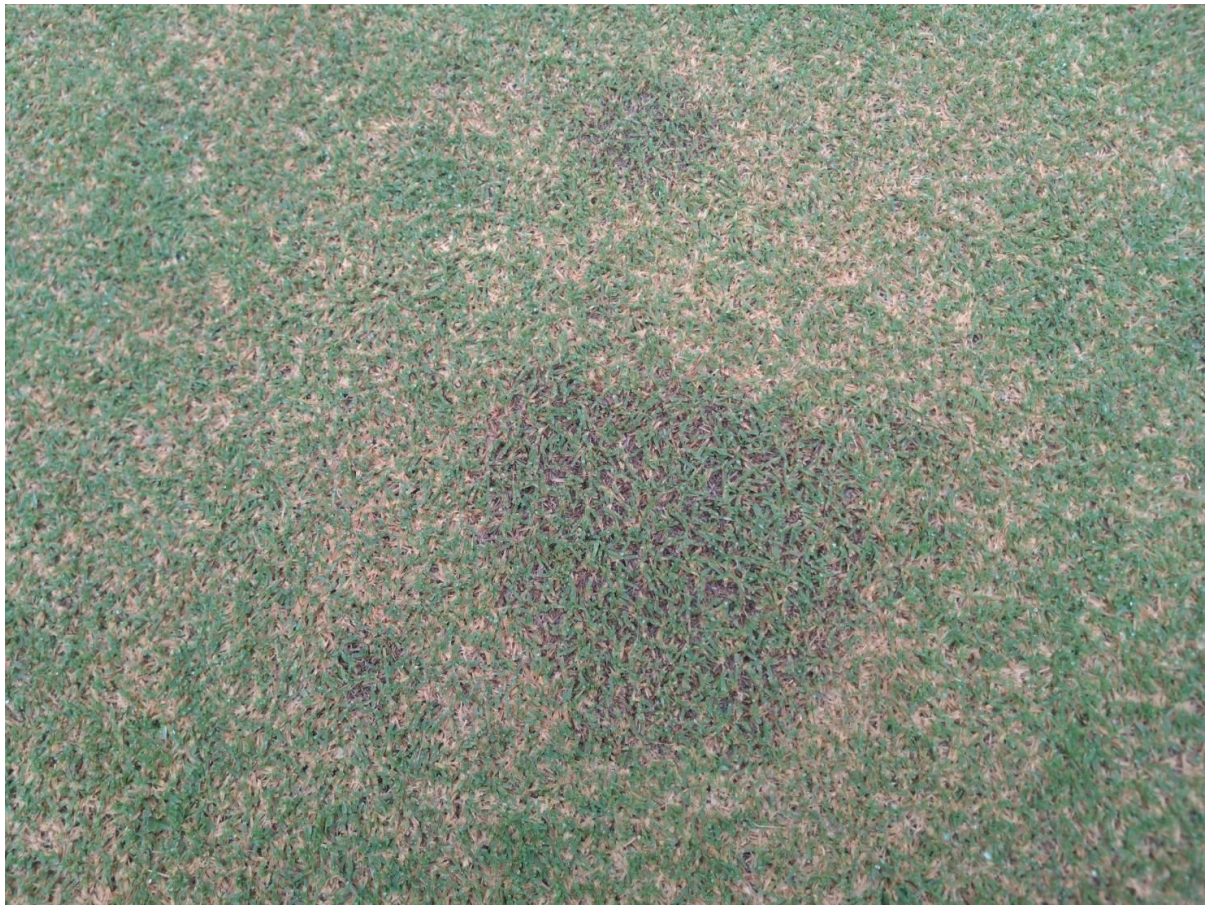
- **発生後の葉枯病に対して優れた防除効果（治療効果）を示した。**
- **バミューダグラスに対する影響はみられなかった。**

葉枯病に対する効果は極大。
バミューダに影響は無かった。

バミューダ葉枯病防除　現地試験★美ら緑（6月処理,2024）@鹿児島県内ゴルフ場

6月13日散布前　→　→　→　6月25日調査





- **発生後の葉枯病に対して優れた防除効果（治療効果）を示した。**
- **バミューダグラスに対する影響はみられなかった。**

葉枯病に対する効果は極大。
バミューダに影響は無かった。

マックスティーマ®フロアブル
★バミューダグラスに対する安全性①

薬剤	薬量	水量	倍率	処理回数	処理日	バミューダグラス薬害						
						4/27	5/10	6/6	6/13	7/5	8/10	9/28
マックスティーマ	1	100	100	2	4/20→6/6	-	-	-	-	-	-	-
	2	100	50	2		-	-	-	-	-	-	-
	4	100	25	2		-	-	-	-	-	-	-
マックスティーマ	1	100	100	1	6/6				-	-	-	-
	2	100	50	1					-	-	-	-
	4	100	25	1					-	-	-	-

試験場所：群馬県内ゴルフ場
芝種：バミューダグラス（ティフイーグル）
試験規模：1区1㎡、2反復
薬剤処理：2023年4月20日、6月6日

薬剤	薬量	水量	倍率	バミューダグラスに対する影響		
				5/29	6/7	6/24
マックスティーマ	2	100	50	-	-	-
	5	100	20	-	-	-
レキシコン	2	100	50	-	-	-
	4	100	25	-	-	-
	10	100	10	-	-	-

試験場所： 群馬県内ゴルフ場
芝種：バミューダグラス（ティフイーグル）
試験規模：1区1㎡、2反復
薬剤処理：2024年5月21日

- **バミューダグラスに対する影響はみられなかった。**

マックスティーマ®フロアブル
★バミューダグラスに対する安全性②

薬剤	薬量	水量	倍率	バミューダグラスに対する影響			
				10/3	10/12	10/31	翌春4/24
マックスティーマ	2	100	50	-	-	-	-
	5	100	20	-	-	-	-

試験場所： 群馬県内ゴルフ場
芝種：バミューダグラス（ティフイーグル）
試験規模：1区1㎡、2反復
薬剤処理：2023年9月28日

薬剤	薬量	水量	倍率	バミューダグラスに対する影響			
				10/3	10/7	10/28	11/6
マックスティーマ	2	100	50	-	-	-	-
	5	100	20	-	-	-	-
レキシコン	10	100	10	-	-	-	-

試験場所： 群馬県内ゴルフ場
芝種：バミューダグラス（ティフイーグル）
試験規模：1区1㎡、2反復
薬剤処理：2024年9月24日

- **バミューダグラスに対する影響はみられなかった。**

マックスティーマ®フロアブル
★バミューダグラスに対する安全性③

薬剤	薬量	水量	倍率	バミューダグラス薬害	
				6/15	6/28
マックスティーマ	1	100	100	-	-
〃	2	100	50	-	-
〃	4	100	25	-	-
無処理	-	-		生育期	生育期

試験場所： 鹿児島県内ゴルフ場
芝種：バミューダグラス　美ら緑
試験規模：1区3㎡
処理日：2023年5月25日　AM9:30　晴れ

薬剤	薬量	水量	倍率	バミューダグラス薬害		
				6/8	6/15	6/26
マックスティーマ	2	500	250	-	-	-
〃	5	500	100	-	-	-
無処理	-	-	-	生育期	生育期	生育期

試験場所： 鹿児島県内ゴルフ場
芝種：バミューダグラス　美ら緑
試験規模：1区1㎡
処理日：2024年6月1日

- **バミューダグラスに対する影響はみられなかった。**

マックスティーマ®フロアブル
★バミューダグラスに対する安全性④

試験場所　鹿児島県内ゴルフ場
芝種：バミューダグラス　美ら緑
試験規模：1区3㎡
処理日：2023年9月13日　　AM8:30　曇り

薬剤	薬量	水量	倍率	バミューダグラス薬害	
				9/25	10/6
マックスティーマ	1	100	100	-	-
〃	2	100	50	-	-
〃	5	100	20	-	-
無処理	-	-		生育期	生育期

- **バミューダグラスに対する影響はみられなかった。**

マックスティーマ®フロアブル
安全性評価

人畜毒性（製剤）：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

急性経口毒性（ラット）	LD_{50}：>2000mg/kg
急性経皮毒性（ラット）	LD_{50}：>5000mg/kg
急性吸入毒性（ラット）	LC_{50}：>5.4mg/ℓ
皮膚感作性（モルモット）	感作性あり
眼刺激性（ウサギ）	刺激性なし
皮膚刺激性（ウサギ）	刺激性なし

水産動植物への影響（原体）

魚類（ニジマス）	LC_{50}（96時間）：0.532mg/ℓ
オオミジンコ	EC_{50}（48時間）：0.932mg/ℓ
藻類	ErC_{50}（72時間）：1.330mg/ℓ

- 一日摂取許容量（ADI）：0.035 mg/kg 体重/日
- 水質汚濁に係る農薬登録基準：0.093 mg/ℓ
- 水域の生活環境動植物の被害防止に係る
  農薬登録基準：0.053mg/ℓ

- **<u>ゴルフ場排出水に関する指導指針（環境省）</u>**

  水濁指針値：0.93mg／ℓ

  水産指針値：0.53mg／ℓ

マックスティーマ®フロアブル
注意事項

●ラベルをよく読む。●記載以外には使用しない。●小児の手の届く所には置かない。●空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理する。●洗浄水は散布液調製に用いるなど、ほ場などで使用する。

⚠安全使用上の注意

●アレルギー性反応を起こすおそれがある。
●公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。

農薬使用者への被害防止方法

(調製時) 西洋芝(ベントグラス･バーミューダグラス)：不浸透性手袋
(散布時) 西洋芝(ベントグラス･バーミューダグラス)：不浸透性手袋

⚠効果･薬害等の注意

●使用前に容器をよく振る。
●使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
●散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布する。
●薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用する。
●使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

保管…直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密栓して保管する。

BASF

We create chemistry